

さんま通信

春

厚生中央病院だより 第64号 2021年



副院長就任のご挨拶

副院長 おおさか 逢坂 よしあき 由昭



令和3年4月より厚生中央病院の副院長に就任いたしました消化器病センター外科の逢坂由昭と申します。この場をお借りしまして皆様にご挨拶申し上げます。私は昭和62年に東京医科大学を卒業後、消化器疾患の治療、特に食道癌の低侵襲手術（ロボット手術など）を中心に臨床と研究に励んでまいりました。そして平成24年5月より消化器病センター外科部長として当院に赴任いたしました。赴任後は体に負担の少ない安全な手術を目指し、胃癌、大腸癌などの悪性疾患、およびソケイヘルニアや虫垂炎などの良性疾患にも腹腔鏡を用いた低侵襲手術を積極的に導入してまいりました。今では消化器外科手術の約70%が低侵襲手術となっており、今後も新しい技術を導入していきたいと思っています。

現在、東京都は新型コロナ感染拡大のため、当院もしばらくはコロナ感染への対応が必要です。感染の疑いのある患者様への抗原検査、通常手術予定の患者様への血液抗体検査や2週間程度の健康観察、また緊急手術を要する場合はPCR検査など、状況に応じて検査を施行し、安全、安心な入院生活をしていただけるように取り組んでまいります。コロナ感染拡大の影響もあり、当院は大変厳しい経営状況にあります。コロナ感染収束後には安定した病院経営を実現していかなければなりません。また組合の直営病院としての役割や地域多機能型病院としての役割も果たしていかなければなりません。そのために各診療科の診断・治療レベルのさらなる向上や新たなサービスを提供するための方策を提案・実行していきたいと思っております。また患者様のニーズに応じたハード面の改良などにも積極的に取り組んでいきたいと思っております。今後とも組合の皆様や地域の皆様に信頼されるように邁進する所存でございますので、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

目次 contents

副院長就任のご挨拶…………… 1

当院における新型コロナウイルス… 2～3
の検査方法について

当院における新型コロナウイルス……… 4
感染症陽性患者の最終報告



目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

当院における新型コロナウイルスの検査方法について

中央検査科

統括主任 赤塚 貴紀



はじめに

新型コロナウイルス検査には、ウイルスの何をターゲットにするかで、様々な検査方法があります。また今現在の感染を知りたいのか、過去の感染を知りたいのかによっても異なります。

当院における検査方法

●抗原検査

感染状況：現在
提出材料：咽頭拭い液
メーカー：大塚製薬
検査時間：約 15 分



抗原とは：ウイルスや花粉など体に免疫反応を起こす物質

簡易キットを用いて検査しています。PCR 検査よりも検査精度は落ちるが、短時間で判定ができるため、救急外来や入院時の診断に使用しています。インフルエンザ流行期には、コロナとの鑑別診断のために、簡易キットを用いてインフルエンザ抗原検査も同時に行っています。

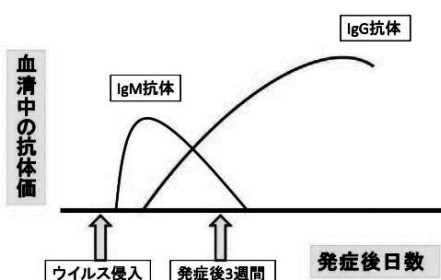
●抗体検査

感染状況：過去
提出材料：採血検体
メーカー：ロシュ
検査時間：約 40 分



抗体とは：ウイルスや花粉などに対抗するため作られる物質

大型の検査機器で過去に感染していたかどうかを検査しています。例えばワクチン接種後に、体内で抗体ができているかどうかを確認するなど、疫学調査に有効だとされています。体内に一定量の抗体がある場合、一般的にはウイルスに感染したとしても、症状が軽減されると言われています。



抗体には 2 種類存在し、感染早期に産生される IgM 抗体、一定の時間が経過してから産生される IgG 抗体があります。順天堂大学病院によれば、発症後 3 週目以降で抗体産生が 100%になると報告しています。

● PCR (Polymerase Chain Reaction) 検査

感染状況：現在

提出材料：咽頭拭い液

メーカー：①東ソー

②ミズホメディー

検査時間：約 1 時間



PCR センター



安全キャビネット

遺伝子：二本鎖のDNA、一本鎖のRNAがあり、コロナウイルスはRNAウイルス

遺伝子 (DNA) 増幅技術の代表的なものが PCR 検査です。微量で複雑な遺伝子の中から、特定の遺伝子だけを選択的に増幅・検出する方法です。特徴としては極めて高感度で特異性が非常に高い検査方法となります。感染防止のために PCR の前処理は、ガウン、フェイスシールドなど着用して、安全キャビネット内で作業しています。PCR センターでは 2 種類の装置・原理の機器を導入し、診療支援を行っています。

補足

RNA は一本鎖であるため、DNA よりも不安定な構造をしています。そのため変異しやすく、最近ではイギリス株などの変異株が問題となっています。

重症化マーカー

① D ダイマーの上昇、② CRP の上昇、③ LDH の上昇、④フェリチンの上昇、⑤リンパ球の低下、⑥クレアチニンの上昇、⑦トロポニンの上昇などを臨床判断の一部として活用しています*¹。

最近の国立国際医療研究センターの報告では、重症化の症状が認められる数日前に、「インターフェロン-λ3 (IFN-λ3)」の血中濃度が急激に上昇することを確認し、新型コロナウイルス陽性患者における、重症化リスク判定を補助する項目として提唱しています。

* 1 新型コロナウイルス感染症 診療の手引き 2020 COVID-19 第4.1 版参照

学術報告のご案内



当院では感染拡大初期から患者を受け入れ、COVID-19 の対応を実施してきました。臨床的評価をまとめましたので報告致しました。

2020 年 8 月：「SARS-CoV-2 抗体と PCR 検査の関連性」
(Relationship between SARS-CoV-2 antibody and PCR test)
「医療と検査機器・試薬 43 巻 4 号」、出版社：(株) 宇宙堂八木書店

当院における新型コロナウイルス感染症陽性患者の最終報告

COVID-19対策チームリーダー（総合内科） 横山 智央

2020年12月28日の新型コロナウイルス感染症陽性者に端を発した一連の当院の感染状況について以下の通り報告いたします。

総合病院 厚生中央病院は、2009年4月に東京都感染症診療協力医療機関に指定されて以降、地域における感染症医療の中核的な役割を担ってきた。新型コロナウイルス感染症（以下：コロナ感染症と略す）においては、2020年2月より東京都からの要請に従い外来・入院でのコロナ感染症患者対応を行い、院内への感染の入り込み阻止を行う対策の徹底を行ってきた。

しかしながら、残念なことに2020年12月28日に覚知した職員のコロナ感染症を契機に、院内において複数の職員・患者様の感染が確認される状況となってしまった。同日に計4名の職員にコロナ感染症遺伝子核酸増幅検査（Polymerase Chain Reaction：PCR）陽性を認め、目黒区保健所と緊密に連絡を取りながら年末年始より病院幹部・COVID-19対策チーム・感染制御チームを中心に、全職員をあげて感染経路と接触者の調査、関係者全員（退院された患者様を含む）の健康管理とPCR検査を継続して行ってきた。その結果、最終的に確認されたコロナ感染症患者は、職員25名、患者20名（外来5名、入院15名）の合計45名となった*。2021年2月4日以降は院内発生例を認めず、当該病棟を専門業者による消毒作業を終えたのち患者様の受け入れを徐々に再開。目黒区保健所へ経過の詳細報告を行い、同年3月3日に当院におけるコロナ感染症の集団感染は終息に至った。

感染経路については、1回目のコロナ感染症PCR検査偽陰性（のちに陽性）であった職員からの飛沫・接触感染であったと推測された。当院では、コロナ感染症流行当初より体調不良の職員に関して積極的にコロナ感染症PCR検査や抗原検査を施行していたが、現在は更なる職員の健康管理の徹底および体調不良時には頻回のPCR検査/抗原検査を繰り返し行い、検査の偽陰性による感染拡大の防止を行っている。東京都のコロナ感染症陽性患者数の増加に伴い、当院職員および患者様の感染リスクも上昇するため、今回の経験を基に、より一層の感染対策を講じている。

この度は、患者様およびご家族の皆様、地域の皆様、連携する医療機関の皆様、全国土木建築国民健康保険組合被保険者様にご心配・ご迷惑をおかけし、大変申し訳ありませんでした。今後も職員一丸となって院内感染防止に全力を挙げて取り組み、皆様が安心して外来受診・入院・健診できる環境を整えていきます。

2021年春以降には新型コロナワクチン接種も開始され、当院でも目黒区の接種会場の一つとして対応を準備しております。引き続きのご理解、ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

※2020年12月28日～2021年2月3日の期間における当院コロナ感染症検査陽性者について、第三者の意見を交えて院内感染および市中感染の再評価をした結果、市中感染と判定された8名を除外したため、当院ホームページと感染者数が異なります。

